

音楽療法（新技術あり）

文献ID	筆頭著者	発表雑誌	発表年	研究デザイン	目的	対象者	対象数	評価法・項目	介入・暴露	介入の頻度	介入の期間	対照療法	主要評価項目	結果	結論
2022301889	森川 泉	日音楽療会誌	2022	臨床研究	高齢者施設における音楽療法活動中に見られた参加者の応答や動作の変化を定量的なビデオ分析により調査した	認知症の高齢者10名	10名	動作・随意運動	集団音楽療法	週1回45分間	6週間	なし	動作・随意運動	音楽療法の参加者の動きをビデオ収録し、音楽療法の効果や参加者の変化を可視化できた。	音楽療法の参加者の動きを定量化することで、観察やアンケートでは評価が困難な音楽療法の効果や参加者の変化を検出する方法のひとつと考えられた。
33691142	Harrison TC	J Am Med Dir Assoc.	2021	RCT	13の長期療養施設が、訓練を受け、音楽に基づく介入を実施する	施設内の住民を介入群と対照群に無作為に割り付けた（介入／音楽、n=103；対照／オーディオブック、n=55）。デザイン：本チームはプラグマティックトライアルを用いて、13の長期療養施設に音楽と対照（オーディオブック）を無作為に組み込み	音楽を聴く群（介入群 = 103）と注意コントロール群（注意対照群 = 55）	MMSE, CAMI	音楽鑑賞	隔週	8週間	音符朗読	MMSE, CAMI	4つの焦燥感下位尺度のうち3つにおいて、焦燥感の減少は音楽とオーディオブックの両方に起因していた。4つ目の身体的興奮は職員に向けられたものではなかったが、当初は音楽によって減少し、その後増加した。	ADRDと診断された入所者において、音楽と対照的なオーディオブックの両方が、個人選択後にヘッドフォンで配信されることで、興奮のいくつかの側面を軽減した。音楽の効果は当初大きく、その後減少した。
2020022932	小杉尚子	日遠隔医療会誌	2019	臨床研究	認知症高齢者に対する遠隔音楽療法の効果について述べる	全国4都市の高齢者施設入所者	51名	MMSE, NPI	遠隔音楽療法	毎週1回・1時間	3か月	無し	NPI	認知症の行動・心理症状に関連する「不安」および「食欲あるいは食行動異常」の「頻度」が有意に改善することを確認した。	遠隔方式の音楽療法も、認知症高齢者に対して対面方式の音楽療法と同様の効果を期待できることが示唆された。